



「阿蘇の山なみが非常にきれいでね。朝起きると正面にバーンと見えるんだから凄い。やはり、ものを考えるにはよい環境ですよ。」

ネットワーキング&メディアデザイナー 中村広幸さん。彼は、グリーンピア南阿蘇のコテージを使ったりリゾート・オフィス実験にモニターの一人として参加している。

「昼は、パソコン通信や電話を使って仕事。夜は、音楽を聞いたり読書したり。たまには外で人と会ったりもしま

すよ。市内までそんなに時間はかからないし。その点、便利な位置じゃないかな。必要な機器も全部あるし、仕事自体は東京にいる時とほとんど変わらない。でも、回りがとても静かですから、アイデアは湧きやすいですね。」

彼の周りには、ワークステーション、パソコン、ファックスなど最先端のOA機器がぎっしり。

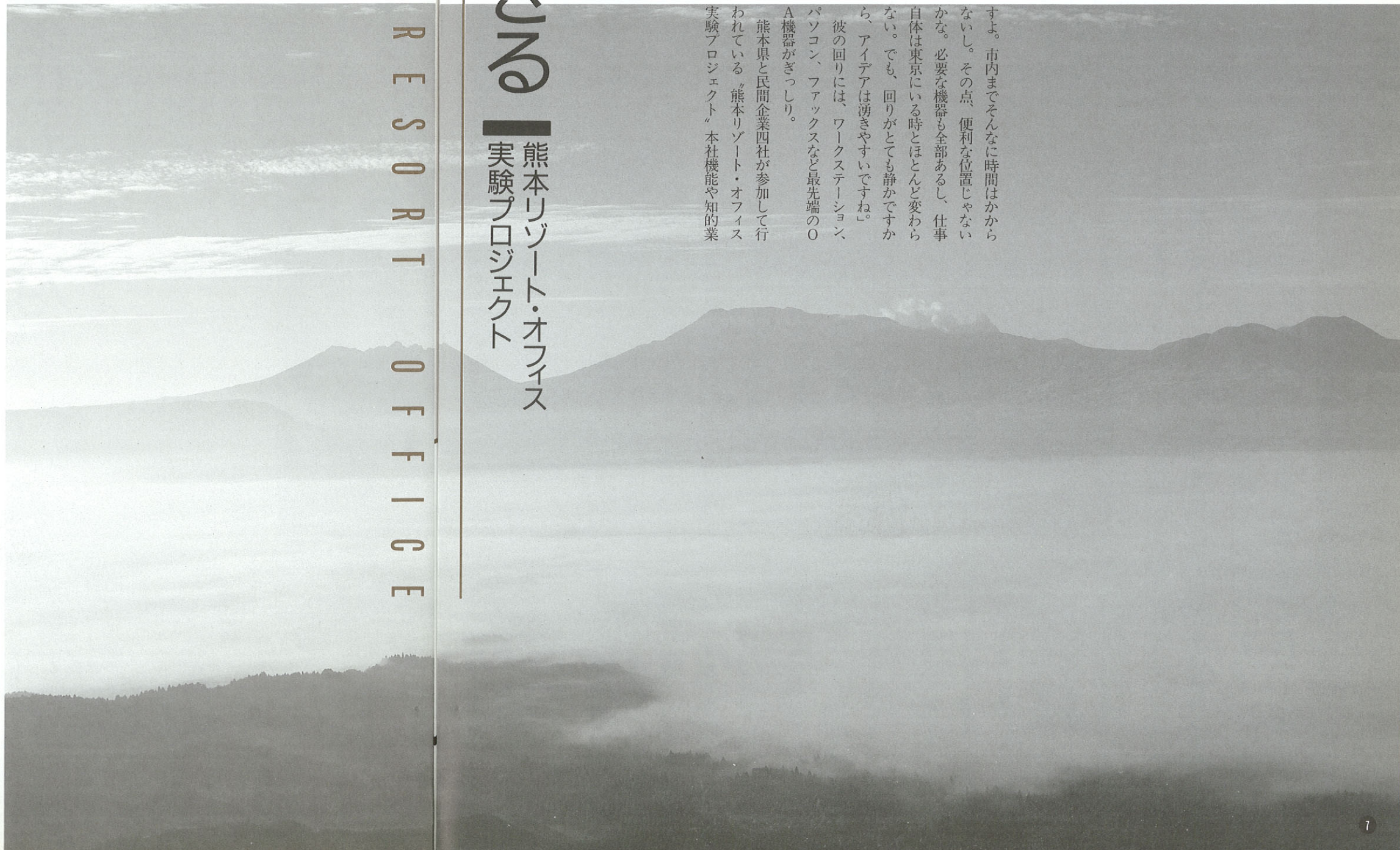
熊本県と民間企業四社が参加して行われている「熊本リゾート・オフィス実験プロジェクト」本社機能や知的業

大自然の中に オフィスがでびくる

熊本リゾート・オフィス 実験プロジェクト

K U M A M O T O

R E S O R T I O F F I C E



務を地価が安く快適なリゾート地に分散できないかというものだ。騒音や排気ガス、通勤ラッシュから離れて、豊かな自然の中、マイペースで仕事をする。そんなリゾート・ライフの夢を実現させるプロジェクトとして、実験は開始された。

これによって、地域振興はもちろんニュービジネスの創出などかなり実用的なメリットが期待できそうだ。さらに、東京一極集中の現状に一石を投じられればという思いもある。

こうして三ヶ月間、十六人のモニターが、一〜三週間交替で実際に通常の業務を行った。「電話や会議に邪魔されず仕事に集中できる」、「通勤ラッシュがなくてラク」、「スポーツや散歩で気分転換ができるのでストレスが溜ま

らない」モニターの声は、圧倒的にプラス評価が高い。しかし、問題点がないわけではない。自己管理の方法、高い交通・通信費などクリアしなければならぬ点も多い。

「リゾート・オフィスは逃げ込む場所じゃないと思うんです。『ネットワーク』というコミュニケーション手段があって、中央とのつながりを保った上で、はじめて中央から離られる環境が存在する。そういう意味では、仕事と余暇は非常にうまく両立しました。ただ、思ったより寒かったのがちょっとね...」中村さんはキーボードを叩きながら苦笑した。

いくつかの課題を抱えながらも、リゾート・オフィスは実験をくり返し、実現へ向かって動き出している。

